

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3171200421		
法人名	株式会社ソルヘム		
事業所名	陽だまりの家とうは(北街) まとめ		
所在地	鳥取県東伯郡琴浦町徳万70-1		
自己評価作成日	令和3年12月	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.solhem.jp/contact.html
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 未来
所在地	鳥取県倉吉市東仲町2571
訪問調査日	令和3年12月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設の隣には徳万公園があり、各居室の中からも四季折々のお花を楽しむことが出来る。春には桜のつぼみから満開まで楽しみ、天気の良い日は散歩等でお花見を行ったり戸外で手作り弁当を楽しんでいる。施設裏手には畑があり、畑仕事が好きなお利用者や職員で季節の野菜を作り、一緒に収穫して毎日の食材にし、季節を感じて頂いている。現在、コロナ禍のため自粛しているが、併設しているデイサービスとも日頃から合同で行事を行いながら交流を深めている。職場環境においても、働き甲斐のある職場、働きやすい職場を目指し、研修や面談の充実を図っている。職員一人一人がお利用者それぞれの想いや意向、要望等を把握し、安心できる環境づくりに努め、ご本人やご家族の安心に繋がられるよう取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・コロナ禍ではあるが、日常的にホームのそばにある公園へ散歩に出かけたり、近場のドライブで気分転換を図っている。
 ・利用者は職員のさりげない声掛けや支援により穏やかな雰囲気でも過ごしている。
 ・敷地内の畑で数名の利用者が野菜を栽培しており、収穫や食材の下ごしらえをして献立に取り入れるなど食事を楽しんでいる。
 ・主治医と連携して看取りの体制を整えており、年2回職員による看取り研修を実施している。
 ・利用者の高齢化が進み、それに伴う施設内の修繕が必要になってきている。脱衣室に冷暖房を設置するなど改善を行い、より快適な生活環境を心掛けている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

★ 努力している点

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関、事務所、各ユニットに基本的理念を掲げて、各自職員の名札にも入れて、朝礼時に唱和を行い実践につながるよう努めている。	玄関・事務所・各ユニットに理念を掲示し、朝礼時に唱和している。職員の名札にも入れて共有し、実践できるよう努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	デイサービスと棟続きになっており、各行事等と一緒にいる。近くにある公園を散歩、施設周辺を回り、地域の夏祭り、とんどさんに参加し交流している。(今年度はコロナ禍のため各行事が中止となっている)	隣接しているデイサービスセンターの利用者と各行事で交流したり、地域の行事に参加していたが、コロナ禍のため、今は近くの公園や近隣を散歩しながら、出会った人に挨拶を交わす程度になっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	日頃から施設周辺、公園を散歩し、地域の方と挨拶を交わしたり和やかな雰囲気と交流している。また、運営推進会議に入居者の方も参加していただくことで、地域の方に認知症の理解や啓発に取り組んでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は年6回(書面開催含む)ご家族、行政担当者、民生委員等をメンバーとして開催している。会議書面として事業所の活動報告(写真付き)、ヒヤリハット事例、職員の研修等の報告を行っている。書面での会議では資料を送付し、メンバーの方々から書面に意見を募っている。	運営推進会議は、出来るだけ対面で開催するように努めているが、コロナ禍により書面開催のときもある。事業所の活動報告、ヒヤリハット事例、職員の研修報告などを行い、より良い施設運営に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営上の留意点やサービス提供等について町の担当者に連絡を取り指導を仰いでいる。	町の担当者とは密に連絡を取っており、様々な意見や指導を受けるなど、相談しやすい関係である。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施設を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	社内研修にて、施設の方針や身体拘束の悪影響や行政への報告書作成義務等について職員に周知し、実施できるよう指導を行っている。3ヶ月に1度、身体拘束委員会を開催し、身体拘束防止に努めている。	三ヶ月に一回身体拘束委員会を開催し、虐待防止について研修を行っている。職員に対しても日々の取り組みの気付きになるよう努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内研修や朝の申し送り時に虐待事例等を周知し、施設内で虐待防止に努めている。また、日々の業務の中で各職員が振り返りを行い、情報共有を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会を開き、日常生活自立支援事業や成年後見制度について理解し、活用できるように体制づくりをしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時は、契約書類等必要書類について利用者や家族に一つ一つ確認して頂きながら説明を行い、理解・納得を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議において、利用者家族代表者に施設の運営、改善点、要望について意見を頂いている。面会時やケアプランの更新時にもご家族の意見を聞いている。	面会時やケアプランの更新時には、家族の意見も聞き取るようにし、運営に反映させている。コロナ禍のため面会できない家族に対して、電話や手紙で利用者の様子を詳しく知らせ、意見を聞くようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のカンファレンスにて職員から意見や提案を聞く機会を設けている。必要時には個別面談の機会も設けるよう取り組んでいる。	管理者は、職員とのコミュニケーションを取りやすいよう毎月カンファレンス(職員会)を開催し、意見や提案を聞く機会を設けるよう取り組んでいる。	直接言いにくい意見や要望がある場合、表出できるような取り組みを期待する
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員の生活背景を理解し、勤務時間の調整等、就労環境の整備に努めている。勉強会に参加した場合に処遇改善交付金を給付し、参加意欲向上を高めている。勤務シフト面で工夫し、全員が参加できる環境を作っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内研修は人材育成委員会の年間計画に基づいて実施している。資格取得を推奨し、各種勉強会を行い、研修に参加しやすい勤務シフトにしている。本人の能力に応じて外部研修の情報提供を行い、希望する研修に参加できるよう取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設の広報誌などで情報交換し、職員の意識の向上の機会としている。外部研修や町内の他グループホーム連絡協議会等に出席し、情報交換を行い、参考点は積極的に取り入れている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時の情報を基に、日常の会話の中で本人の想いや望みを聴きながら、少しでも可能に出来るように、安心できるようにより良い関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族の不安や要望等の思いを気兼ねなく語れる機会(担当者会議を含む)を作り、信頼関係を築いている。毎月のお便りなどで、入居者の状態をお伝えしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントを十分に行い、様々な職種の職員と課題分析を行っている。ニーズを見極め、適切な対応が行えるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「人生の大先輩」ということを前提とし、「昔取った杵柄」を発揮して頂いている。家庭的な雰囲気を大切にしながら、お互いが助け合って生活していると思っ頂ける様に、持ちつ持たれつの人間関係を作れるよう努力している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様とは日頃から状態報告を行い、連携を取っている。訪問時には、共に本人を支えていく関係を築いている。また、家族の生活状況の変化についても収集している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人の日頃の表情、言動に注意し、心理状態を想像しながら家族、友人の訪問依頼を行い、一緒に過ごす時間を大切にしている。今年はコロナウイルス感染症防止のために面会制限があり、職員が手紙や電話でこまめに近況をお知らせするなど工夫している。	今年はコロナの影響で面会制限あり、職員が手紙や電話でこまめに近況報告し、関係が途切れないよう支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の性格を理解し、また、利用者同士の関係を観察し、必要時に職員がさりげなく声をかけ、橋渡し役に努めている。仲の良い利用者から声をかけていただき、笑顔が見られる関係づくりに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても家族会等には案内し、気軽に立ち寄って頂ける様、関係性を大切にしていきたい。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の会話の中で本人の思いや意向確認を行い、スタッフで話し合い、本人の思いに添った生活の実現に努めている。また、自己表現が困難な方の心情の把握に努め、本人の希望意向に添えるよう検討を行っている。	一人ひとりの思いや意向については、日頃接している会話の中で聞き取り、家族・職員間で情報共有し、本人の思いに沿った生活の実現に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・家族に聞き取りを行い、これまでの暮らしぶりの情報の把握に努めている。日常での変化を見ながら取り組めそうな内容を提供し、ケアプランに反映させている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日頃の様子を観察し記録に残し、現状の把握に努め、その日の体調を見ながら、利用者にも無理のないよう過ごして頂いている。定期的にあセスメントを行い、能力や課題、生活への思いについての現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアの内容については定期的に会議を開き、利用者の現状を話し合い、ケアプラン作成を行っている。他職種での情報交換と検討を行い、様々な意見を取り入れたケアプランを目指し作成している。	定期的な会議で看護職と共に情報を共有し、ケア計画の作成と見直しをしている。家族の意向は電話で確認したり説明している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の気づきや変化等を記録に残して介護計画の見直しを行っている。また、申し送りノートの活用、ケアカンファレンス等により職員の情報共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者のその時々状況の変化に応じて家族様と連絡を取り合い、ニーズに対応できる様努力し、支援に繋げている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今年新型コロナウイルス流行のため、陽だまりカフェ、地域の祭り、催し物などの交流が出来なかった。状況をみながら地域との交流を再開したい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族が希望される医療機関をかかりつけ医とし、受診の支援を行っている。また、主治医への状態報告や指示受けを確実に、医療機関との関係作りに努めている。	本人及び家族の希望するかかりつけ医に受診し、適切な医療が受けられるよう支援している。月2回の内科医の往診もある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の健康管理について、介護職と看護職の連携に努め、看護職員が必要な助言や指示を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	各病院の地域連携室や看護師との情報交換を積極的に行い、利用者についての適切な処遇について話し合う機会を持つようにしている。また、退院時カンファレンスを行い、スムーズな支援に繋げている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期医療について、施設としてできること、できないことについて家族に説明している。その範囲の中で、協力医療機関や主治医と連携しながらできる限りの対応を行っている。	重度化した場合や終末期のあり方については家族と話し合い、事業所で支援可能なケアについて説明している。主治医と連携し、看取りの体制を整えており、年2回職員による看取り研修を実施している。	重度化・終末期の研修については、可能な限り看護職の協力を得て、体調の変化や介護のポイントについての実践的な研修を検討してみたいかどうか。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の連絡体制を作成して、急変、事故発生時に職員が対応できるようにしている。緊急時対応についても消防署等において救急救命の講習を受講している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時、デイサービスと協力し、日中、夜間を想定した避難訓練を行っている。連絡網を作成し、全職員が協力出来るようにしている。	避難訓練は年4回計画しており、災害時に備え、夜間想定も実施している。指定避難場所は現実的には困難なため、実現可能な避難場所を模索するよう、行政からの指導を受けている。	実現可能な災害対策の検討、防災グッズの整備など、さらに工夫して欲しい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入浴やトイレ案内時、プライバシーを尊重し、丁寧な言葉かけを行い、自己決定出来る様働きかけている。接遇や個人情報保護について学ぶ機会を作っている。	★利用者は職員のさりげない声掛けで穏やかに過ごしている。個々を尊重し、言葉使いに配慮した対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の表情などを観察しながら、一人一人に合った言葉かけや心がけを行い、自己決定出来る様働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の気持ち、思いを大切に、できるだけ入居者の意向に沿ってその人のペースに合った生活を過ごされるよう支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に移動美容院やボランティアに来て頂き、散髪を行っている。また入浴前は一緒に服装を選んでもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の好きな食べ物や、中庭の畑で採れた旬の野菜を使った献立を取り入れている。食材の下ごしらえができる方には積極的にしていただいたり、トレー拭き等を手伝っていただいている。	★ホームの敷地内に畑があり、数名の利用者が野菜を栽培している。採れた野菜は調理をして献立に取り入れるなど食事を楽しんでいる。希望を取り入れながらメニューも考えている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	恵の会で1ヶ月ごとにメニューを決め、カロリー、栄養バランスを考え、一人一人の状態に合わせた刻み食、トロミ等を提供している。水分は種類を変えながら、喜んで飲んで頂ける様工夫している。食事摂取量は記録に残し、必要な栄養、水分の確保ができるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行い、清潔を保てる支援を行っている。歯ブラシ、スポンジブラシ等を使用し、一人一人の口腔内に合わせたケアを行っている。就寝前には義歯を外し、洗浄剤に付け、翌朝には綺麗な義歯をしてもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表にて一人一人の排泄状況を把握し、できるだけトイレで排泄ができるよう、時間をみてトイレ誘導や声掛けを行っている。	自分で排泄可能な利用者には声掛けを行い、自立に向けた支援を行っている。一人ひとりの排泄の記録を毎日職員で共有し、体調管理に気を配っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝牛乳等、乳製品の飲み物をお出ししたり、食物繊維の多い食事を取り入れている。毎日の水分量、排泄状況をチェックし、便秘時は個々の便秘薬を服用し、排便コントロールを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご本人の体調や希望により、曜日や時間をずらすなどして柔軟に対応している。	週2回以上は入浴出来るよう支援している。浴槽に入れられない利用者は、シャワー浴で対応している。★脱衣室に冷暖房が設置され、浴室の空調が改善された。	同系列の1階にあるデイサービスセンターには特浴を整備している。使用時間の工夫により、重度化した利用者にも活用を試みてはどうか。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は適度な運動や活動を取り入れ、メリハリのある生活リズムを作ることを心掛け、夜間の安眠につなげている。また、一人一人体調に合わせて、体に負担の無いよう日中でも静養時間を設けている。居室内温度、環境に気を付けながら、ゆっくりと安眠できる様心掛けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報提供書をカルテにファイルし、目的や副作用が確認できるように努めている。また、薬の変更があった場合はカルテに記入し、変更後の体調の変化などを観察し、スタッフ間での情報共有に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	やりがいや喜びを感じていただける役割活動やレクリエーション活動を心身の状態に合わせて一日の活動に取り入れている。野菜の皮むきや塗り絵、読書等をして頂き、個々の残存能力を生かした支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の影響で3密を避け、外出は控えているが、天気の良い日は園庭や近くの公園に散歩に出かけ、気分転換を行っている。	コロナ禍のため外出は難しい時ではあるが、利用者の体調や天候を見ながらドライブに出かけるなどの柔軟な対応をしている。★ホームの裏には公園があり、日常的に散歩に出かけ、気分転換を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理が困難な利用者については金庫にて預り管理を行い、買い物の際には本人の理解と同意を得る機会を設けている。毎月明細書を家族に送付している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には必要に応じて電話ができるよう支援している。本人宛にかかってきた時は、話がしやすい環境を作っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	木の温もりも感じることができるような空間設計となっている。ホール内に季節の花を飾ったり、くつろげる空間を作っている。また、随時施設内の温度・湿度調整を行っている。	季節感のある手作りの作品が展示され、利用者が楽しめるような工夫をしている。施設内の温度・湿度調整を行って居心地の良い空間づくりに努めている。	利用者個々の個性や傾向に沿った空間づくりや作品の展示方法を検討してみてはどうか。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者の関係性を考慮し、テーブルの席を配置している。ホールにソファを置き、テレビを見られたり話されたりし、ゆったりと過ごしてもらえる工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が以前より使われている家具を使われたり、御家族様の写真を飾られ、安心安全に居心地良く過ごして頂ける様配慮している。	使い慣れた家具を持ち込む利用者もあり、使いやすいように工夫している。利用者個々に応じたディスプレイになっており、明るい雰囲気づくりに配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレに手すりを設置し、安心して移動出来る様環境作りを行っている。利用者の出来る事を理解し、家事や洗濯たみをして頂き、充実した生活を送ってもらえるよう努めている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3171200421		
法人名	株式会社ソルヘム		
事業所名	陽だまりの家とうはく(南街)		
所在地	鳥取県東伯郡琴浦町徳万70-1		
自己評価作成日	令和3年12月	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.solhem.jp/contact.html
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 未来
所在地	鳥取県倉吉市東仲町2571
訪問調査日	令和3年12月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設の隣には徳万公園があり、各居室の中からも四季折々のお花を楽しむことが出来る。春には桜のつぼみから満開まで楽しみ、天気の良い日は散歩等でお花見を行ったり戸外で手作り弁当を楽しんでいる。施設裏手には畑があり、畑仕事が好きなお利用者や職員で季節の野菜を作り、一緒に収穫して毎日の食材にし、季節を感じて頂いている。現在、コロナ禍のため自粛しているが、併設しているデイサービスとも日頃から合同で行事を行いながら交流を深めている。職場環境においても、働き甲斐のある職場、働きやすい職場を目指し、研修や面談の充実を図っている。職員一人一人がお利用者それぞれの想いや意向、要望等を把握し、安心できる環境づくりに努め、ご本人やご家族の安心に繋がられるように取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

別紙参照

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝の申し送りの時に服薬5則と一緒に基本理念の唱和を行ったり、理念の書かれたカードを全員が携帯しており意識付けを行っている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	デイサービスと裸統ぎになつており、各行事等と一緒にやっている。近くにある公園を散歩、施設周辺を回り、地域の夏祭り、とんどさんに参加し交流している。(昨年度、今年度はコロナ禍のため各行事が中止となっている)		
3		○事業所の方を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	日頃から施設周辺、公園を散歩し、地域の方と挨拶を交わしたり和やかな雰囲気交流している。また、運営推進会議に入居者の方も参加していただくことで、地域の方に認知症の理解や啓発に取り組んでいる。(昨年度、今年度は自粛している。)		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は年6回(書面開催含む)ご家族、行政担当者、民生委員等をメンバーとして開催している。会議書面として事業所の活動報告(写真付き)、ヒヤリハット事例、職員の研修等の報告を行っている。書面での会議では資料を送付し、メンバーの方々から書面にて意見を募っている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営上の留意点やサービス提供等について町の担当者に連絡を取り指導を仰いでいる。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	社内研修にて、施設の方針や身体拘束の悪影響や行政への報告書作成義務等について職員に周知し、実施できるよう指導を行っている。3ヶ月に1度、身体拘束委員会を開催し、身体拘束防止に努めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内研修や朝の申し送り時に虐待事例等を周知し、施設内で虐待防止に努めている。また、日々の業務の中で各職員が振り返りを行い、情報共有を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	勉強会を開き、日常生活自立支援事業や成年後見制度について理解し、活用できるように体制づくりをしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時は、契約書類等必要書類について利用者や家族に一つ一つ確認して頂きながら説明を行い、理解・納得を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議において、利用者家族代表者に施設の運営、改善点、要望について意見を頂いている。面会時やケアプランの更新時にもご家族の意見を聞いている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のカンファレンスにて職員から意見や提案を聞く機会を設けている。必要時には個別面談の機会も設けるよう取り組んでいる。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員の生活背景を理解し、勤務時間の調整等、就労環境の整備に努めている。勉強会に参加した場合に処遇改善交付金を給付し、参加意欲向上を高めている。勤務シフト面で工夫し、全員が参加できる環境を作っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内研修は人材育成委員会の年間計画に基づいて実施している。資格取得を推奨し、各種勉強会を行い、研修に参加しやすい勤務シフトにしている。本人の能力に応じて外部研修の情報提供を行い、希望する研修に参加できるように取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設の広報誌などで情報交換し、職員の意識の向上の機会としている。外部研修や町内の他グループホーム連絡協議会等に出席し、情報交換を行い、参考点は積極的に取り入れている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時の情報を基に、日常の会話の中で本人の想いや望みを聴きながら、少しでも可能に出来るように、安心できるようにより良い関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族の不安や要望等の思いを気兼ねなく語れる機会(担当者会議を含む)を作り、信頼関係を築いている。毎月のお便りなどで、入居者の状態をお伝えしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントを十分に行い、様々な職種の職員と課題分析を行っている。ニーズを見極め、適切な対応が行えるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「人生の大先輩」ということを前提とし、「昔取った杵柄」を発揮して頂いている。家庭的な雰囲気を大切にしながら、お互いが助け合って生活していると思っ頂ける様に、持ちつ持たれつの間人間関係を作れるよう努力している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様とは日頃から状態報告を行い、連携を取っている。訪問時には、共に本人を支えていく関係を築いている。また、家族の生活状況の変化についても収集している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人の日頃の表情、言動に注意し、心理状態を想像しながら家族、友人の訪問依頼を行い、一緒に過ごす時間を大切にしている。今年はコロナウイルス感染症防止のために面会制限があり、職員が手紙や電話でこまめに近況をお知らせするなど工夫している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の性格を理解し、また、利用者同士の関係を観察し、必要時に職員がさりげなく声をかけ、橋渡し役に努めている。仲の良い利用者から声をかけていただき、笑顔が見られる関係づくりに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスに関わったご家族様に運営推進会議に参加して頂いたり、行事に参加して頂いたりもしている。時折野菜など頂きものもあり、利用者様と頂いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	単調な生活のなかに刺激があるよう、雑誌や塗り絵の購入をしたり楽しまれている方もいる。担当、管理者が連絡を取り合い、(必要ならカンファレンスも)希望意向に沿えるよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	おおまかな事は個人記録に書いてあり、職員も見るように努めている。時折利用者様が話される昔の話をこれからのより良いサービスへ繋げる時もある。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	発熱、アザなど少しでも利用者様に異変があった時は、皆で情報を共有し、支援の変更を行う。長くなるようであればカンファレンス、プラン変更を行うようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	アセスメントを行う際、皆で話し合い、本人(家族)様からの意向も聞き(新しくプラン変更行う場合)現状に即したものに反映できるようにしている。一時的な場合はカンファレンスにて話し合い、変わる現状を把握し、支援するようにしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の個人記録に出勤した職員は必ず、体調の変化、話した事、イベント等記録に残すようにしている。体調の変化、不穏等は次の職員に申し送りし、日中特記に記入情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様とこのコロナ禍会えない日も多く、お手紙にたくさんの写真を添えたり、体調、状態に変化のある入居者様には何度も電話させて頂き状態を伝え、ニーズにも対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今年新型コロナウイルス流行のため、陽だまりカフェ、地域の祭り、催し物などの交流が出来なかった。状況をみながら地域との交流を再開したい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族が希望される医療機関をかかりつけ医とし、受診の支援を行っている。また、主治医への状態報告や指示受けを確実にし、医療機関との関係作りに努めている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の健康管理について、介護職と看護職の連携に努め、看護職員が必要な助言や指示を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	各病院の地域連携室や看護師との情報交換を積極的に行い、利用者についての適切な処遇について話し合う機会を持つようにしている。また、退院時カンファレンスを行い、スムーズな支援に繋げている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期医療について、施設としてできること、できないことについて家族に説明している。その範囲の中で、協力医療機関や主治医と連携しながらできる限りの対応を行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の連絡体制を作成して、急変、事故発生時に職員が対応できるようにしている。緊急時対応についても消防署等において救急救命の講習を受講している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時、デイサービスと協力し、日中、夜間を想定した避難訓練を行っている。連絡網を作成し、全職員が協力出来るようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の人格を尊重し、一人一人の気持ちや意思を大切に損なわない言葉かけを行い、寄り添い穏やかな生活ができるよう努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の表情など観察しながら、本人の思いや希望が理解できるように言葉かけを行い、自己決定できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の思いを大切に、日々の食事や入浴等、本人の生活スタイルが保てるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に移動美容院やボランティアの方に来て頂き、散髪を行っている。季節に合わせ衣替えを行い、天候に合わせた服装を本人の好みに合わせて選んでいただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	畑で季節の野菜作りを手伝ったり、野菜の皮むき、米研ぎ等下準備をして頂いている。誕生会には好みの食事、ケーキでお祝いしたりして、食事を楽しんで頂いている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	恵の会で栄養バランス、カロリーを検討し、メニューを決めている。一人一人の状態に合わせた刻み食、トロミ等を提供し、お茶等種類を変え、喜んで飲んで頂けるように工夫している。食事摂取量は記録に残し、必要な栄養、水分の確保ができるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行い、一人一人に合わせた歯ブラシやスポンジブラシを使用し、清潔を保てるよう支援している。就寝前には義歯を洗浄し、清潔に保てるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人記録にて、排泄パターンを把握し、できるだけトイレでの排泄が出来るよう、トイレ誘導や声掛けを行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝、牛乳や乳製品の飲み物を出している。適度な運動を行い、根菜類を多く取り入れた食事を工夫している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	定期的に入浴されている。本人の体調や希望によって曜日を決めたりし、柔軟に対応している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中に適度な運動や活動を取り入れ、生活リズムを作ることに心がけ、夜間の安眠に繋げている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報提供書をカルテにファイルし、目的や副作用が確認できるよう努めている。職員同士にてチェックを行い、服薬支援を行っている。薬の変更があった場合は、体調の変化などを観察し、スタッフ間での情報共有に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	やりがいや喜びを感じて頂く事の出来る役割活動や行事等を考え、気分転換を図っている。(庭、畑の草取り、塗り絵、読書等)		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で外出は控えているが、天気の良い日は施設周辺を散歩したり、畑で野菜作りや収穫を行い、支援している。また、戸外での洗濯物干し、ゴミ出し、職員の用事に同行していただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理が困難な利用者については、金庫で預かり管理を行っている。コロナ禍のため、欲しいものがある時は必要なものか精査し、職員が買い物支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には必要に応じて電話が出来るよう支援している。本人にかかってくる時は話がしやすい環境を作っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テーブルには季節の花を飾っている。ホール、廊下には利用者と一緒に作った季節の工作を飾り、くつろげる空間作りに努めている。また、気温に応じて随時施設内の温度、湿度調整を行っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者の関係性を考慮し、テーブル席を配置している。ホールにソファを置き、居場所があることでゆったりと安心して過ごされている。利用者によっては、場所を移動して一人で落ち着いて過ごせるように支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者手作りの折り紙、塗り絵等を居室やフロア内に飾られたり、馴染みのある家具を置き、居心地よく過ごせるようにしている。(また、ご家族の写真が飾られている方もおられる)		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	洗濯物干しや米研ぎ等の家事は出来る方には積極的にして頂く様声掛けしている。トイレ、廊下に手すりを付け、安全に過ごせる環境づくりを行っている。		

事業所名:グループホーム陽だまりの家とうはく

作成日: 令和 4年 3月 1日

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】(原)					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	11	職員が直接言いにくい意見や要望がある場合、表出できるような取り組みを期待する。	職員が意見を言いやすい雰囲気作りや、個人面談を行いながら意見をくみ上げる。	職員一人一人の性格を考慮し、様子を観察しながら声掛け、面談を行う。(定期的に個人面談を行い思いを聞く環境を整える。)	12ヶ月
2	33	重度化・終末期の研修については、可能な限り看護職の協力を得て、体調の変化や介護のポイントについての実践的な研修を検討してみようか。	利用者の重度化に伴い、支援の在り方や看取り期を支えるケアのポイントを看護職の協力を仰ぎながら具体的に研修する。	介護職としてどのような心構えで支援すればよいか、いざという時の不安を取り除けるよう研修を行う。介護職員、看護職、医師等他職種との連携体制が整うよう話し合いを行ったり、ケアで注意すべきことの確認を行う。	12ヶ月
3	35	実現可能な災害対策の検討、防災グッズの整備など、さらに工夫してほしい。	令和4年度は業務継続計画(BCP)に合わせて避難訓練や備蓄を具体的なものにしていく。	年度初めに隣接するデイサービスや事務所の担当者らと具体的な避難訓練計画を立て実施する。普段準備している食材の中に、災害時すぐに使える食品(水、缶詰、レトルト食品、米等保存出来る物)やポータブルトイレ、排泄用パッド、紙パンツ、タオル、毛布、消毒用アルコール、ペーパー類等は余裕をもって備蓄する。	12ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。